

## 新春挨拶

### 新年のご挨拶

社団法人 日本作業船協会 会長  
武井俊文



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、リーマン・ブラザーズを契機とした世界経済の低迷からの回復を模索してきた1年でありました。鉱工業生産指数や日経平均株価の統計指標は昨年秋までは穏やかな回復基調にありましたが、依然として国内の需給ギャップはマイナスでデフレ基調と報告されております。加えてドバイ・ワールドの債務一次凍結や為替の円高気配もあり、景況感は依然として厳しい状況にあります。

一方、中国やインドにおいては、ここ数年にわたる高い経済成長に伴い石油、金属鉱物資源、食料などの消費量が急激に増大しております。世界的な資源調達競争は激しさを増し、我が国においても様々な政策展開が検討された1年でもありました。例えば、大型バルク輸送の効率化を図るための港湾整備や沖ノ鳥島における港湾整備の検討調査が予定され、また、海底資源開発推進のためのラウンドテーブルが設立されました。このような動きに大いに期待を寄せております。

我が国作業船の動向については平成21年1月現在で40船種、7,900隻が確認されており、平成19年に比べて約850隻減少しておりますが、地盤改

良船の建造やグラブ浚渫船の機能増などの動きがみられました。またWorld Dredging誌によると世界における大型浚渫船は1,776隻でここ1年間に350隻が減少したと報告されており、世界的な景気低迷が作業船の減少を招いたものと推測されます。一方、2000年からの10年間で153隻の大型浚渫船が建造され、最近ではパナマ運河の拡幅工事の着工に伴い複数の新型浚渫船が建造中であります。また、イラクにおいても経済復興のために複数の大型作業船の建造が予定されているなど、今後、作業船のスクラップ・アンド・ビルドが期待されています。

弊協会は、一昨年（平成20年）6月の総会におきまして、一般社団法人へ移行することを決議いたしました。この決議を受けて、本年中に移行申請を行う予定であります。移行に伴い、公益活動および共益活動をこれまで以上に充実し、作業船に関する技術の向上や利活用に関する調査研究を行っていきたいと考えております。また、蓄積してきた技術を活かして国内外の作業船関連業務にも積極的に取り組んでまいります。引き続き皆様のご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げますとともに、会員の皆様におかれましては、本年が良い年となりますようご祈念いたします。